

三重県紀宝町 災害ボランティア派遣報告

8月25日に発生した台風12号は、ゆっくりとしたスピードで北上し、9月3日10時ごろに高知県に上陸しました。大型で速度が非常に遅かったため、紀伊半島を中心に大雨を降らせました。この影響で、和歌山県や奈良県、三重県を中心に土砂災害、浸水、河川のはん濫等がおき、多数の死者・行方不明者、床上・床下浸水が発生しました。

岡崎市社会福祉協議会では、東日本大震災への災害ボランティア派遣を行っていたことから、すぐにボランティア募集を行い、9月15日・16日に三重県紀宝町でボランティア活動を行ってきました。

《活動の様子》15日



浸水したお宅のキッチンの片づけを行っているところです。このお宅は床上1メートルくらいのところまで水が来たそうです。

キッチンの収納やオープンを開けると、中から溜まっていた水が溢れてきます。被災から1週間以上たっているので、水が腐り、泥や油と混ざっていたので、だいぶ悪臭もありました。また、食器や鍋も泥がついたままの状態だったため、きれいに水洗いしました。

右側の写真は、同じお宅の別の部屋の様子です。床板をはがし、消毒をしていました。家財道具などの片づけは、まだ手つかずの状態ですので、継続ニーズとしてボランティアセンターに報告を行いました。

この日はほかにも、使えなくなった家財道具を軽トラで集積場まで運んだり、床板をはがしたり、浸水した納屋の清掃などを行いました。

《活動の様子》16日

16日は、朝から雨模様でした。尾鷲市の宿泊所から紀宝町ボランティアセンターに向かうバスの中から、土砂崩れ現場が見えます。二次災害が起こらないよう気を引き締めて、注意しながらの活動でした。

大里地区の集会所と個人宅の清掃を行いました。

大里地区は、近くを流れる川が決壊し、屋根まで浸水してしまった家が多く、被災が最もひどい地区の一つです。住民のかたは、中学校で避難所暮らしをしています。生徒のためにも早く避難所を集会所に移転させて授業を再開させたいという区長さんの思いから、集会所の調理場やホールの清掃を行いました。ホールにあった舞台は、水の力で端から端まで移動していました。

電気・水道などのライフラインが復旧していたことから、壁や床にこびりついた泥の清掃作業では、高圧洗浄機での作業が大変有効でした。



《宿泊について》

今回は、尾鷲市社会福祉協議会のご厚意で、社協が管理している福祉センターの一角を宿泊用に提供してくださいました。畳やマットが敷いてある部屋で眠ることができ、翌日に疲れを残さないで活動ができたのも、尾鷲市社協職員さんが夜遅くまで残って見守ってくださったおかげです。

被災地支援活動を終えて・・・

今回の活動は、派遣決定が9月9日、参加者決定が11日、出発が14日という、かなり急な募集にも関わらず、22名のボランティアに参加いただきました。

また、岡崎社協に寄せられた皆様からの善意で、衣類や生活用品などを紀宝町に寄付させていただきました。岡崎市民の方々の温かい気持ちを強く感じることができた活動でした。

参加していただいたボランティアの皆さんは、大きなケガや体調不良もなく、無事に2日間の活動を終えることができました。ご協力いただいた多くの方々に感謝しています。本当にありがとうございました。